

ノーリフティングケア導入への取り組み

一床走行式リフトを活用しよう



社会福祉法人 順和 特別養護老人ホーム 鹿助荘

- ・所在地 福岡市南区西長住
- ・種別 特別養護老人ホーム
(個室ユニット型 3フロア7ユニット)
- ・入所定員 60名
- ・ショートステイ 10床
- ・平均介護度 3.72
- ・介護職員 44名 (男性13名 女性31名)
- ・平均年齢 44.2歳

併設事業所

地域密着型特別養護老人ホーム藤ヶ丘荘
福岡市南第2地域包括支援センター
福岡市南第11地域包括支援センター

事業参画への流れ ①

⇒これまで鹿助荘では移乗などの介助の際、ほぼ**人力介助**で行っていた。



2024年度末に床走行リフト3台を導入



『ぜひともリフトを活用して鹿助荘のケアを変えたい』
(事務長)



そこへ・・・**ノーリフティングケア普及促進事業**の
案内の封書が！



事業参画への流れ ②

事務長！即決

『これだ！ノーリフティングケアの導入が
できれば鹿助荘の**ケアは変わる！！**』



ほどなくして、ノーリフティングケア普及促進事業への参画が決定！

ノーリフティングケア推進チーム結成

統括マネージャー	西岡 宏樹 (事務長)
職員の健康管理担当	川野 恭代 (看護主任)
教育担当	村上 達大 (介護主任)
個別アセスメント・ プランニング担当	元土肥 理恵 (介護支援専門員)
福祉用具導入計画・ 管理担当	伊達 崇祐 (機能訓練指導員)
技術指導者	村上 達大 伊達 崇祐



福祉用具を活用して抱えないケアを実現しよう！

1年目の取り組み -①-

リスクマネジメント研修・技術研修の開催



<リスクマネジメント研修>



<リーダー向け技術研修>



<全職員向け技術研修>

毎年5月・10月 全職員向け技術研修
 毎年4月・11月 新入・中途職員向け研修
 毎月第1水曜日 委員会内研修
 毎月第3水曜日 リーダー向け技術研修

研修の年間開催日程を決定

1年目の取り組み -③-

ラウンドチェックの実施・改善（隔月実施）

ラウンドチェックの中で汚物廃棄の際、ゴミ箱から袋の持ち上げが腰の負担になると担当職員より証言があった。



袋いっぱい詰め込んで6.7kg



印を付け最大容量を制限



約半分の3.3kgに減量

担当職員より腰の負担がなくなったと改善を確認

1年目の取り組み -②-

これだけ体操（腰痛予防体操）の実施



これだけ体操のPOPを各ステーションの壁に掲示

声を掛け合って、まずはできることから

就業前の実施を推奨

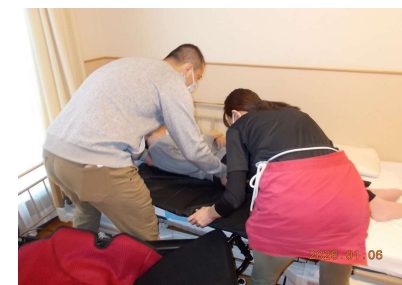
1年目の取り組み -④-

移乗方法の見直し ケアプランへ福祉用具の活用を明記

ケアプランの変更に合わせて、ケアプランをノーリフティングケアの要素を取り入れて作成。

<p>①住居交換のベッドからリクライニング車いすへ 離床 ②臀部部分からの浸出液の観察 ③掻き傷：ni×軟膏塗布</p>	<p>R07/12/01～R08/02/28 ①厚食、夕食はリビングにてリクライニング車いすで食事を摂る ②他者の声やスタッフの動き、TVの歌番組を観る ③他者とのおしゃべりを楽しむ ④気分転換の日光浴 ⑤面会時の交流</p>
--	--

<p>転倒・転落による骨折の予防ができる。</p>	<p>R07/12/01～R08/02/28 【臥床時】 ・ベッドセンサー使用（基本スイッチは切らない） ・ベッドは傾斜（足元）に傾斜マット設置（夜） ・看護師による定期的な（夜）巡回（夜間） ・リクライニング車椅子使用 ・スライディングボード使用 ・入浴時 ・【トイレ移動時】 ・椅子を移動 ・椅子を移動 ・椅子を移動 ・椅子を移動 ・椅子を移動</p>
---------------------------	---



<床走行リフト使用による改善例>

介護職員より相談

76歳 男性 要介護度 5
※2025年1月～3月にかけて虚血性腸炎で長期入院 ADLが大きく低下

◎介護ケアで困っていたこと◎

- ①体動なく大柄な体格のため2人介助でも移乗が女性職員には負担。
(フレックスボード移乗)
- ②ケア時(特に移乗時)怒号の様な放声。
- ③入浴ができない。(体を突っ張り、特浴入浴台への移乗困難)

⇒清拭のみのため、お風呂に入れてあげたい

- ④ベッド⇒リクライニング車いすへの移乗後、機嫌が悪くなり食事を摂ってくれない。



介護職・ケアマネジャー・看護師・管理栄養士・機能訓練指導員が
集まり、移乗方法についてカンファレンスを実施。

⇒床走行リフトでの移乗に変更してみてもどうか?

出来ていなかった入浴もできるのでは!



<床走行リフト使用による改善例>

床走行リフトでの移乗へ変更した結果

- ①ベッド⇔リクライニング車いすの移乗時、拒否や放声なく移乗が出来ている。
- ②リクライニング車いすへの着座の際、深く座れるため、姿勢の傾きがなくなり座位が安定した。
- ③長い期間、清拭のみで入浴が出来ていなかったが、床走行リフトでの移乗への変更で特浴での入浴が出来るようになった。
- ④移乗後に機嫌が悪くなる事がなくなり、その後のケアへの影響がなくなった。

⇒職員発信でケアが変わった!

<床走行リフト使用による改善例>

床走行リフトでの移乗を試したところ



<ベッド⇔リクライニング車いす間の移乗>

<特浴入浴台への移乗>

体に力が入ったり、大きい声を出す
などなくスムーズに移乗ができた

1年目の成果と今後の課題

<1年目の成果>

- ・介護職員よりケア(移乗)の見直しの相談が増えた。
- ・介護職員より福祉用具の使用方法についての質問が増えている。
(使いこなしたいなどプラスの意見)
- ・既に数名、ノーリフティングケアの要素を取り入れたケアプランが進行している。

⇒明らかにノーリフティングケアと福祉用具の活用意識が高まっている。

<今後の課題>

- ・まだ福祉用具を使うのが面倒くさいとの理由から使いこなせていない。
(人力優位)
- ・福祉用具のメンテナンスについての意識が低い。
- ・スケジュール通りに技術研修を進め、中途入職・4月新卒入職者への研修をスムーズに行う。

⇒技術研修とノーリフティングケアのケアプランへの落とし込みが進めば鹿助荘のケアは必ず変わる。